

小学校

教科【体育】

単元【マット運動】

主体的・対話的で
深い学びのポイント

ICT端末のカメラ機能を活用し、動きを比べたり、友だちと話し合ったりすることにより、運動に係る動きのポイントを積極的に見付け、練習に生かすことができ、学びが深まる。

ICT活用のポイント

遅延カメラアプリ等を活用することにより、自分の動きを客観的に見たり、手本の動きと比べたりすることができ、運動に係るコツやポイントについての深い理解につながる。

使用する
ICT機器

大型提示装置、タブレット等

使用するアプリ・
クラウドサービス等見比べレッスン、遅延ビデオカメラ
タイムシフトスナップショットクラウド
の活用教材の配布・回収等
生徒の学習状況の把握資料等の共有
その他（ ）本時の
ねらい

- ・基本的な技のポイントを理解し、自分や友だちが考えたことを伝え合うことができる。
- ・運動に積極的に取り組み、友だちの考えや取組を認め、運動に生かすことができる。

主な学習活動
(学習場面)

ICTの活用・留意点等

評価

導入

- 本時の課題を確認する。
- 学習課題の解決に向けた見通しをもつ。

一斉



マットの技を安定して行うために、どんなところに気を付けるとよいかを考える。



動画で、マットの技を安定して行うための動きのポイント（手の位置や足の使い方など）に気付かせる。

ICT機器



展開

- 見通しを基に、練習する。

個別



遅延カメラコーナーで自分の動きを確認するとともに、教師からのアドバイスを受ける。

ICT機器

指針2



- 気付きやコツを全体で交流する。

協働



見比べレッスンを活用し、成功例と失敗例の違いを明らかにする。

ICT機器

指針3



学習課題の解決について、動きのポイントを全体で交流する。

ここで評価

- 交流したことを生かし、もう一度練習に取り組む。

一斉



タイムシフトスナップショットを活用し、友だちと改善策を伝え合いながら、全体で交流したことを生かして練習に取り組む。

ICT機器

ここで評価



終末

- 本時の振り返り

一斉



できるようになったこと、考えたことを発表する。